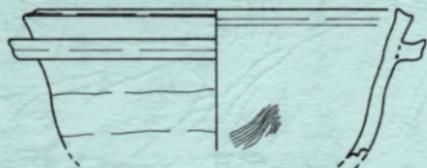


南山下遺跡発掘調査概要報告書

— 四條畷市中野所在 —

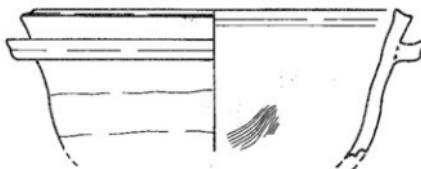


2001年7月

四條畷市教育委員会

南山下遺跡発掘調査概要報告書

— 四條畷市中野所在 —



2001年7月

四條畷市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、四條畷市教育委員会が平成13年度（2001年）に実施した、共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、四條畷市大字中野37-1の一部と37-9に所在する南山下遺跡において、平成13年4月16日に着手し、平成13年4月24日に終了した。
- 3 発掘調査は、四條畷市教育委員会社会教育部生涯学習課 技師職員 村上 始を担当者とし実施した。調査にあたっては、同主任 野島 稔の指導を得た。
- 4 発掘調査の実施にあたっては、林 健二氏・林 洋之氏の御理解・御協力を得ることができた。記して厚く感謝の意を表したい。
- 5 出土遺物の整理・実測および本書の執筆については、村上 始が行なった。
- 6 発掘調査において出土した遺物および写真・実測図面等は、四條畷市教育委員会に保管している。

凡　　例

- 1 断面図の基準ラインは、北側市道にあるマンホールを仮ベンチ = 0 m とし作成した。
- 2 方位は磁北を示す。
- 3 土色及び遺物の色調は、1998年度版『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。

本 文 目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経過及び成果	2
第3章 まとめ	8
図版・報告書抄録	

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

四條畷市は大阪府の北東部に位置しており、南山下遺跡は四條畷市岡山1丁目・岡山東1丁目・中野本町・中野3丁目に所在する。この遺跡は、東西約300m・南北約270mの範囲が繩文時代・古墳時代・中世の集落跡として周知されている。

今回調査した地区は、生駒山系から西流する岡部川と清滝川に挟まれた海拔22m前後の清滝丘陵上に立地している。



第1図 周辺遺跡分布図・位置図

南山下遺跡では、岡部川改修工事に伴う発掘調査を始めとして過去数次の調査を行なつてきており、その詳細については平成12年度発行の概要報告書を参照されたい。

以下当遺跡と周辺の遺跡について概観を述べる。

旧石器時代の遺跡としては、削器・彫器・ナイフ形石器・細石器・ハンドアックスなどが出土した更良岡山遺跡（讃良川床遺跡）や有舌尖頭器が出土した南山下遺跡があげられる。縄文時代の遺跡としては、南山下遺跡・更良岡山遺跡・四條畷小学校内遺跡・清滝古墳群などがあり、中期から晩期の遺物が数多く出土している。弥生時代の遺跡としては、前期に始まり中期から後期に大集落を営む雁屋遺跡や前期の土器が出土した四條畷小学校内遺跡があげられる。古墳時代の遺跡としては前期の忍岡古墳を始めとし、中期～後期になると清滝古墳群・大上遺跡・忍ヶ丘駅前遺跡・木間池北方遺跡・四條畷小学校内遺跡などで古墳が築かれる。またこの時代は、家形埴輪や木製下駄などが出土した岡山南遺跡、犬形・水鳥形・鶏形などの動物埴輪や人物埴輪など大量の埴輪や土器類が出土した忍ヶ丘駅前遺跡、馬形埴輪などが出土した南山下遺跡、初期の須恵器や勾玉・管玉・白玉など大量の玉類・製塙土器などが出土した中野遺跡、人形や馬形の土製品やミニチュア土器とともに馬を埋葬した祭祀遺跡である奈良井遺跡など市内各所で集落が営まれる。奈良時代の遺跡としては、土器や円面鏡とともに土馬が7体・井戸から「…万呂」と墨書きされた土器などが出土している木間池北方遺跡、「大」と墨書きされた土師器坏が出土した南野遺跡や四條畷小学校内遺跡などがあげられる。またこの時期には正法寺跡や讃良寺跡で寺院が建立される。特に正法寺跡は薬師寺式の伽藍配置であると推定されており、昨年度の調査では講堂跡と推定される地点で基壇を検出している。なお中世から近世の遺跡についても市内各所で確認している。（第1図）

第2章 調査に至る経過及び成果

平成13年2月5日付で林 洋之氏より四條畷市教育委員会に四條畷市大字中野37-1の一部・37-9において共同住宅を建築するにあたって、文化財保護法第57条の2第1項の規定により埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容を検討・協議した結果、平成13年4月4日に遺跡の有無及び堆積土の層序を確認するために試掘調査を実施したところ、遺

物包含層および遺構を確認した。林氏と協議を重ねた結果、開発により遺跡が破壊される箇所については原因者負担で発掘調査を実施することとなった。(第1図)

(1) 基本層序

- 第Ⅰ層 盛土 厚さ10~20cm。現在の地盤である。現代の盛土。
- 第Ⅱ層 耕土 厚さ5~20cmである。現代の耕土。
- 第Ⅲ層 床土 厚さ4~10cmである。現代の床土。
- 第Ⅳ層 灰色系砂質土 厚さ10~40cmである。遺物包含層である。
- 第Ⅴ層 黄灰色系粘質土・灰色砂礫層 遺構面であり、地山面である。

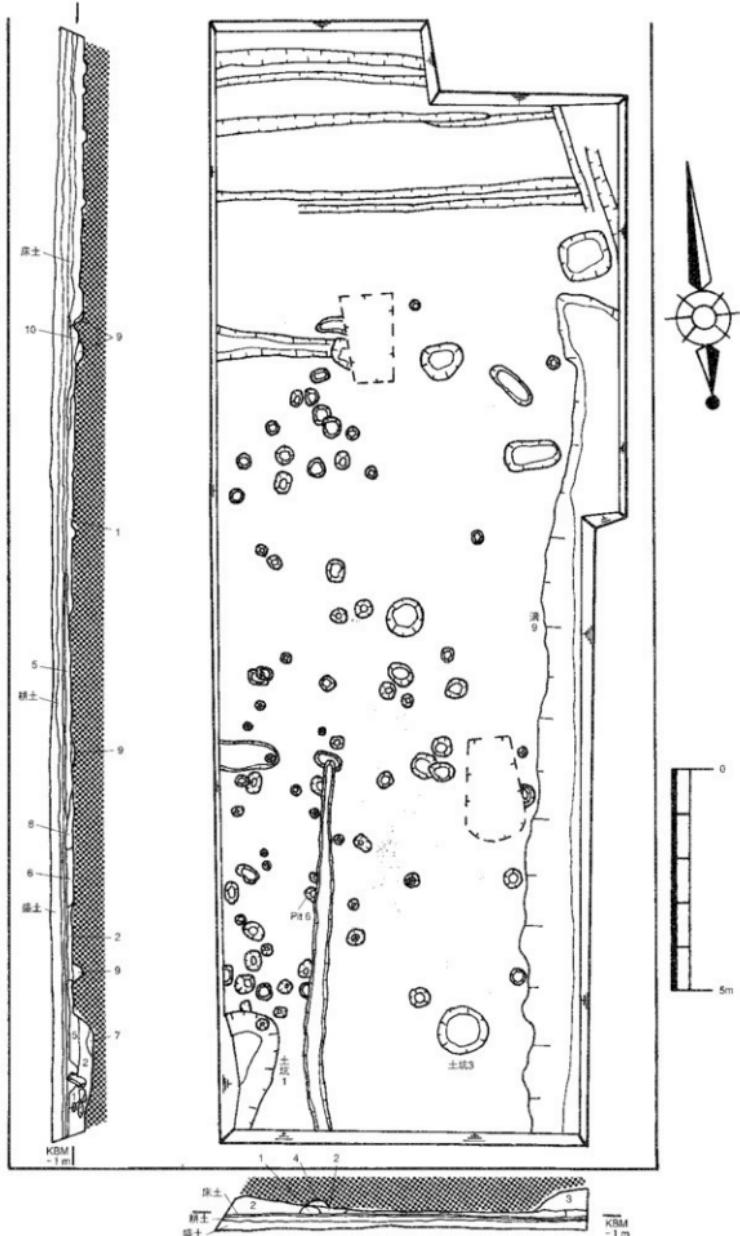
調査地区断面 土層説明(第2図)

第1層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)	第7層	灰色シルト (N 5/)
第2層	褐灰色砂質土 (7.5YR 4/1)	第8層	第6層が水分により暗青灰色
第3層	にぶい黄褐色砂質土 (10YR 4/3)		砂質土 (5B 4/1) に変色
第4層	灰色砂質土 (N 5/)	第9層	灰黃褐色砂質土 (10YR 4/2)
第5層	第1層が水分によりオリーブ灰色 砂質土 (2.5Y 4/1) に変色	第10層	灰黃色砂質土 (2.5Y 6/2)
第6層	黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)	第11層	黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1)

(2) 遺構(第2図・図版1~3)

現在の地表下約40~50cmのところで遺構面を検出した。この遺構面が、今回の調査地区的地山面でもある。調査地区の北側約1/4においては、東西方向の幅約20~30cmの耕作に伴う溝を検出した。これらの溝のうち明確に検出できたものは6本であったが、本来は数回の耕作により数十本が重なり合っているものと思われる。

この耕作地から約3m離てた南側からは、82基の土坑やPitと4本の溝を検出した。土



第2図 遺構平面図・調査地区断面図

坑については円形や楕円形など様々な形状・規模のものがみられ、Pitについては直径約20~60cmの円形のものや一辺が約30~50cmの方形のものがみられた。それらのうち3基については、断面の観察により直径15cm前後の柱の痕跡を確認した。上記以外の溝については、特に調査地区の東端で検出した溝9と呼称しているものが最も規模が大きく、今回の調査では最も多くの遺物が出土している。その規模は、長さ約19m・最大幅約1.5m・深さ約50cmであった。この溝の東側半分と南側は調査地区外に当たるため、その詳細な形状は不明であるが、今回検出できた範囲から推定すると、ほぼ南北方向に直線的に延びる溝であると思われる。また小片の遺物が散乱して出土している状況から、一種の廃棄場所のような役割を果たしていたものではないかと考える。

今回検出した個々の遺構の時期については、約半数の遺構から遺物が出土していないためその詳細については不明な点が多く残った。しかし、遺構面上層の遺物包含層から近世に属するものが出土していないことや残りの遺構から出土した遺物から判断すると、今回検出した遺構は平安時代後期~中世の範疇に納まるものと考える。

(3) 遺 物

遺構出土遺物（第3図1~18・図版4・5-1~18）

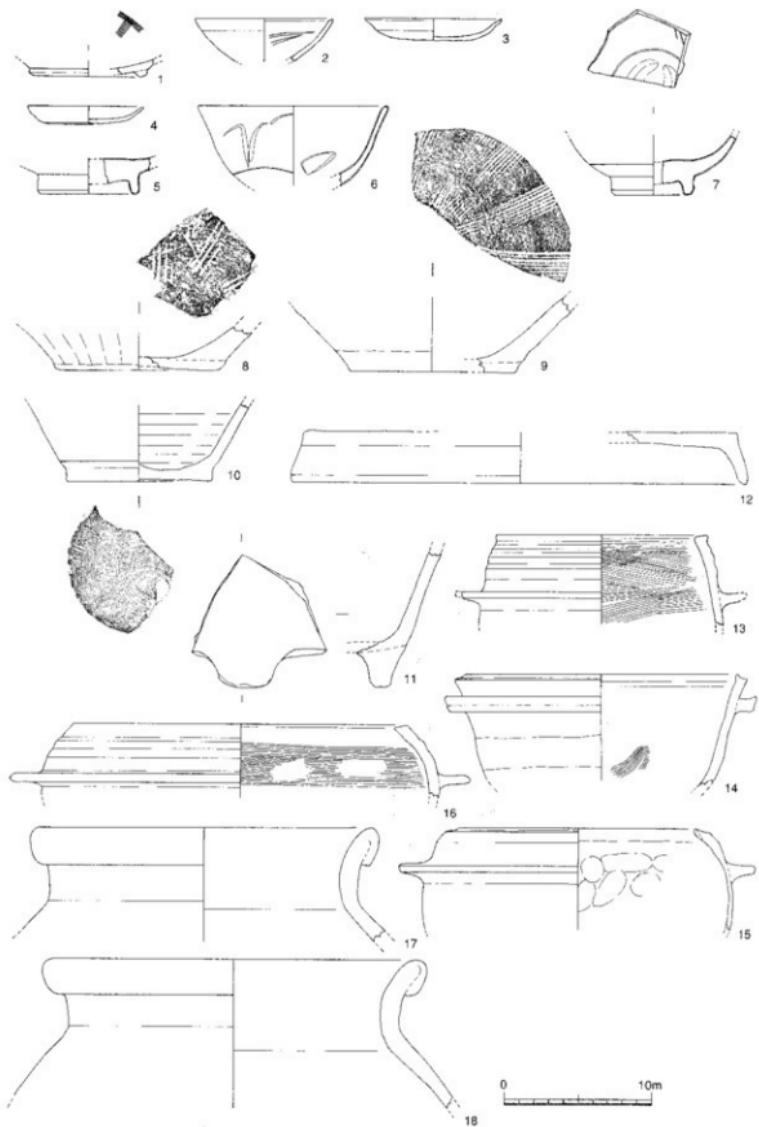
1は黒色土器B類碗の高台部分である。底径は7.3cmで、高台はハの字状に若干開き気味である。内面には緻密なヘラミガキを施している。畿内系V類に分類されているものと考える。Pit 6から出土。（第3図-1・図版4-1）

2は瓦器碗である。口径は9.4cmで、内面の環線ヘラミガキは粗い。大和型瓦器碗のIII-Eに分類されているものと考える。土坑1から出土。（第3図-2・図版4-2）

3は土師器皿である。平底の底部から体部が大きく外上方へ伸び、口縁部はヨコナデ調整により若干外反する。口縁端部は内側に丸め気味で、いわゆる「て」の字状口縁を呈している。底部外面にはユビオサエによる指頭痕が認められる。土坑3から出土。（第3図-3・図版4-3）

4~18は溝9から出土したものである。

4は土師器皿である。平底の底部から体部が大きく外上方へ伸び、口縁部は丸く納める。（第3図-4・図版4-4）



第3図 出土遺物

5は青磁碗の高台部分である。高台は断面台形を呈し、底部外面以外全面に施釉されている。龍泉窯系の製品。(第3図-5・図版4-5)

6は青磁碗である。口縁部は若干外反する。内外面に文様が刻まれているが、彫りが浅いため文様は不明瞭である。龍泉窯系の製品。(第3図-6・図版4-6)

7は青磁碗の高台部分である。高台は断面台形を呈し、底部外面以外全面に施釉されている。内面と見込み部に文様がみられる。特に見込み部には、圈線内に陽刻のような文様がみられるが不明瞭である。龍泉窯系の製品。(第3図-7・図版4-7)

8は瓦質摺鉢である。外面は縦方向のヘラケズリが施されている。摺り目は4本を1単位としている。底部外面には離れ砂の痕跡がみられる。(第3図-8・図版5-8)

9は瓦質摺鉢である。外面はナデ調整が施されている。摺り目は9本を1単位としている。(第3図-9・図版5-9)

10は須恵器鉢である。体部外面はナデ調整が施され、内面にはロクロの痕跡が明瞭にみられる。底部外面には回転糸切り痕が残っている。(第3図-10・図版4-10)

11は瓦質鉢の脚部である。浅鉢か若しくは深鉢の脚部の一部である。(第3図-11・図版5-11)

12は瓦質深鉢の蓋である。天井部外面には離れ砂の痕跡が顕著にみられる。(第3図-12・図版5-12)

13は土師質羽釜である。若干内傾する長い口縁部の外面には段をもち、端部は面を持つて終わる。内面には横方向の密なハケメ調整が施されている。G型式に分類されている河内産のものである。(第3図-13・図版5-13)

14は土師質羽釜である。体部は外上方へ開きながら口縁部に至る。口縁部は短く、端部は強いナデ調整により上方へつまみ上げている。鍔は短く、先端はナデ調整により凹面を呈している。体部外面には粘土紐の痕跡がみられる。内面は丁寧なナデ調整が施されているが、一部にハケメ状のものが施されている。鍔から下部の体部外面には煤の付着がみられる。これは他地域からの搬入品であると思われる。(第3図-14・図版5-14)

15は土師質羽釜である。内傾する短い口縁部の先端部は、強いヨコナデ調整によって内側に引き出されている。鍔の先端部は丸く納めている。鍔の下部と胴部に煤の付着がみられる。F型式に分類されている河内産のものである。(第3図-15・図版5-15)

16は瓦質羽釜である。内傾する短い口縁部の外面には段をもち、端部は面を持って終わる。内面には横方向の密なハケメ調整が施されている。E型式に分類されている河内産の

ものである。(第3図-16・図版5-16)

17・18は陶器壺の口縁部である。2点とも口縁端部の内面と肩部に自然釉がみられる。
(第3図-17・18・図版5-17・18)

第3章 まとめ

今回の発掘調査は、四條畷市大字中野37-1の一部・37-9における共同住宅建設に伴う発掘調査として原因者負担により実施した。今回の調査を実施するにあたっては、市道を挟んで北側のマンション建設に伴う発掘調査でも古墳時代と鎌倉時代の遺跡を確認していることから、当地にも遺跡が広がっていることが十分に予測されるものであった。

以下、簡単に整理し、まとめにかえておきたい。

今回の調査においては、試掘調査でも確認していたように調査地区全面において遺構を確認した。本文中でも述べたように、約半数の遺構から遺物が出土しなかったため、それらの個々の遺構については時期を確定しがたい。しかし、残りの遺構から出土した遺物や遺構面上層の遺物包含層から出土した遺物から全体の概観を考えると、平安時代後半から室町時代の集落跡であると考えられる。この結果と周辺の調査結果とを合わせて考えると、この周辺一帯には平安時代から室町時代にかけて集落が営まれていたことが明らかとなつた。また今回の調査では古墳時代の遺構は検出しなかったが、その時代のものと思われる遺物が少量ではあるが出土していることから、古墳時代の集落の広がりも十分に考えられる。なお図示はしていないが、溝9から格子目の叩きや繩目の叩きをもつ平瓦が十数点出土している。この種の瓦については、この周辺では今回の調査地区から南東へ約300mのところに存在する正法寺跡から大量に出土している。寺院等の存在が確認されていない当地においてこれらの瓦が出土している点については、瓦を再利用したのではないかという点も含めて今後の課題としたい。



1. 調査前 全景（北から）



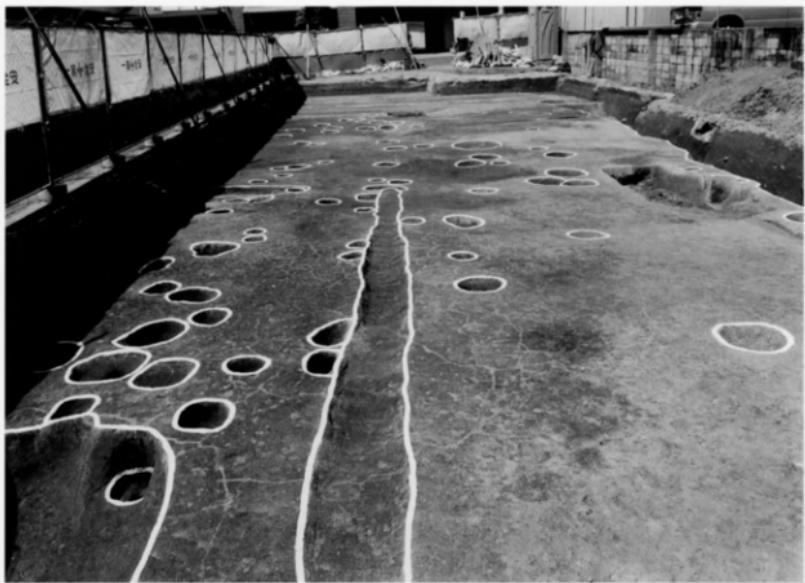
2. 遺構検出 全景（北から）



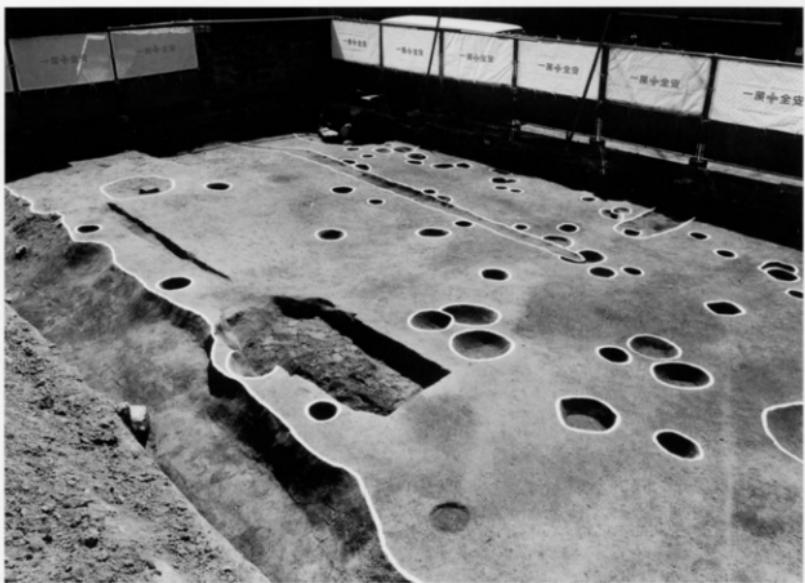
1. 作業状況



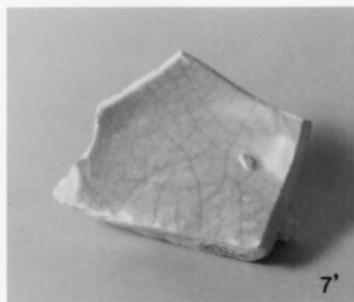
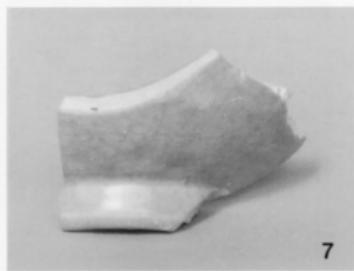
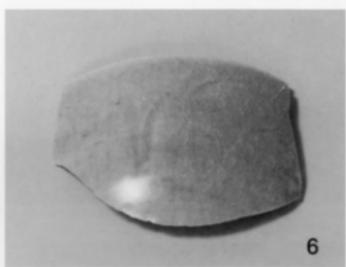
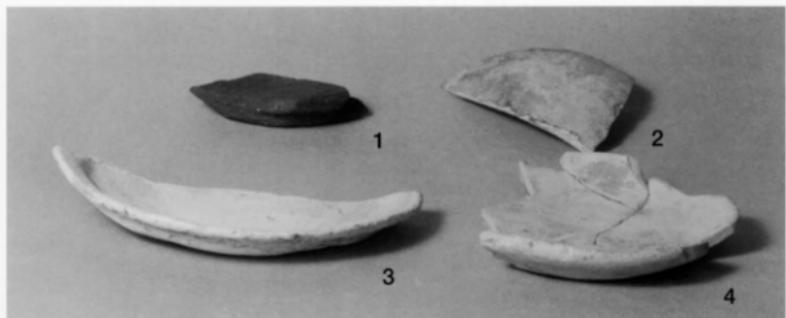
2. 遺構全景（北から）



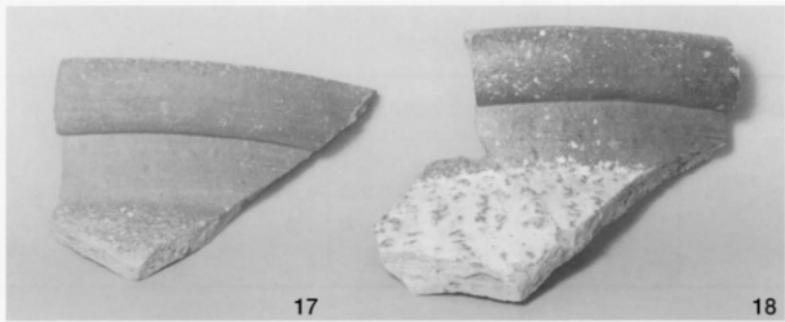
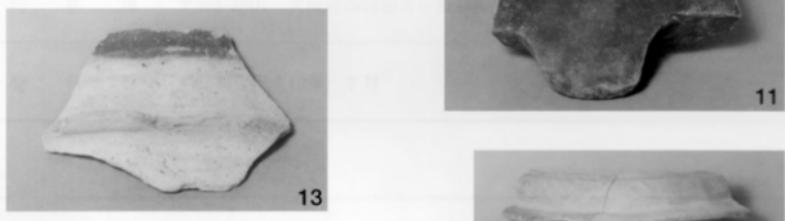
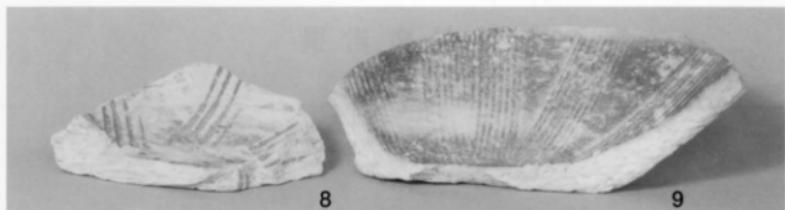
1. 遺構全景（南から）



2. 遺構全景（北東から）



図版 5 出土遺物



報告書抄録

ふりがな	みなみさげいせきはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	南山下遺跡発掘調査概要報告書
編著者名	村上 始
編集機関	四條畷市教育委員会
所在地	〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号 TEL 072-877-2121
発行日	2001年(平成13年)7月

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みなみさげいせき 南山下遺跡	しじょうなわてし なかの 四條畷市 中野地内	272299	34° 44' 07"	135° 38' 50"	平成 13年4月16日 } 4月24日	228m ²	共同住宅 建設

所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南山下遺跡	集落	平安時代～ 中世	掘立柱建物跡・ 溝	青磁・瓦質土器・ 土師質土器	

南山下遺跡発掘調査概要報告書

平成13年7月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会
四條畷市中野本町1-1

印刷 川西軽印刷株式会社